

令和7年度 諫早市立明峰中学校 学校評価（自己評価）

※職員・生徒・保護者 アンケート結果の集約（9月及び1月に実施）

平均値が3.6以上は青で、3.0以下は黄で表示。また、前期と比して横ばい、もしくは、下がったもののみ矢印を付記している。

評価項目	No	評価内容	職員			生徒 保護者					
			R 6 末	R7		R 6 末	R7		R 6 末	R7	
				1 回 目	2 回 目		1 回 目	2 回 目		1 回 目	2 回 目
賢 さ	1	授業形態の工夫	3.4	2.9	3.8	3.2	3.4	3.9	2.9	3.2	3.7
	2	理解できるまでの丁寧な指導	3.4	3.0	3.5	3.3	3.3	3.7	2.7	3.1	3.4
	3	前向きで積極的な学習態度	3.4	3.1	3.3	3.3	3.3	3.7	3.1	3.1	3.5
	4	学習課題に対する自分の考え	／	3.1	4.0	／	3.3	3.6	／	2.9	2.9
	5	自己の考えの積極的発信	／	3.2	3.5	／	2.9	2.9	／	2.7	2.4
	6	計画的な家庭学習・習慣化	3.3	3.1	3.3	3.3	3.2	3.4	2.7	2.8	2.8
	7	総合的な学習の時間の充実	／	3.2	3.5	／	3.3	3.6	／	2.9	3.0
優 し さ	8	いじめを許さない環境づくり	3.5	3.7	4.0	3.4	3.5	3.7	3.0	3.3	3.7
	9	自分や周りを大切にす行動	3.6	2.9	3.1	3.5	3.6	3.9	3.1	3.3	3.7
	10	校舎内外の環境美化	3.3	2.7	2.4	3.3	3.3	3.7	2.7	3.2	3.6
	11	進路に関する自己の適性の発見	3.4	2.9	2.6	2.9	3.1	3.2	2.7	2.8	2.5
	12	学校生活への楽しさ・満足度	／	3.2	4.0	／	3.3	3.7	／	3.2	3.5
さわ やか さ	13	あいさつ、身なり、言葉遣い	3.5	2.8	3.3	3.3	3.3	3.7	3.0	3.1	3.6
	14	学級活動・生徒会活動の充実	3.3	3.1	3.5	3.1	3.4	3.7	2.5	3.2	3.6
	15	部活動等による心身の鍛錬	3.3	3.0	3.3	3.4	3.3	3.2	3.2	3.2	3.4
	16	基本的生活習慣(食事・睡眠)の確立	3.4	2.9	3.3	3.4	3.3	3.6	3.2	3.2	3.7
	17	地域の人等とのコミュニケーション	3.0	2.9	3.1	3.0	3.3	3.4	3.1	2.8	2.5
	18	家庭への情報発信・提供	3.1	2.8	3.1	3.2	3.3	3.7	3.0	2.9	3.0

【総括】

今年度は、県教委の「グローバル人材育成」研究指定3年目ということ意識して、昨年度までの評価項目を一部変更した。したがって、全項目において過年度との比較ができないため、主に9月と1月の比較について述べたい。左表のとおり、9月から1月にかけて「横ばい」あるいは「下降」となった項目は少なく、多くの項目において上昇となった点は評価できるものである。

しかしながら、次に示す3点を次なる課題とする必要を感じたところである。

- ①「5 自己の考えの積極的発信」において、生徒の評価が2.9と低いこと。
- ②「11 進路に関する自己の適性の発見」において、教師、保護者ともに3を下回る結果であったこと。
- ③「17 地域の人とのコミュニケーション」において、職員・生徒ともに3を上回ったのに対して、保護者が2.5と極端に低いこと。

これらのことを念頭において、左表の「賢さ」「優しさ」「さわやかさ」の観点から学校評価における自己評価をする。

【賢さ＝確かな学力の育成】

先述したとおり、自己の考えの積極的発信の生徒評価が低い点を大きな課題と捉える。本校では、グローバル人としての大きな要素に「発信力強化」をあげており、

この点の評価が低いということは、すなわち、授業をはじめとする実践研究においてその充実が図れていないことを物語っている。教師については3.5の結果となったことから、考えの発信という場面設定には意を用いたものの、学習者である子供たちに届いていないとも言える。また、この項目に対する評価は3年生が3.2であったのに対して、1・2年生はともに2.8であり、落ち着いたある学習態度に課題が残るという1・2年生の生徒指導上の問題とも関連があると考えられる。再度、授業づくりの基盤に据えるものを全職員で確認し、改善を図らなければならない。

なお、項目2の「先生は分からないところを、わかりやすく教えてくれる」の生徒評価は3.7と高い評価であり、次年度以降も大切にしたいことである。

【優しさ＝豊かな心の育成】

自分自身の将来に対して明るい展望を持ち、自分の良さや可能性を見出すことこそ、学校教育の最たる目的の一つであるが、教師及び保護者の評価が低い。おそらく保護者においては、「6 計画的な家庭学習」と相まっての我が子への期待の裏返しであろうし、職員においても期待する生徒像には遠いとの判断からくるものだと推測される。生徒自身が、割合、肯定的にとらえており昨年度よりも高い数値となったことが救いである。生徒がそれぞれ、自分の良さや適性といったものを見出せるような教育活動の工夫、及び、その適性と見合った将来の職業について、教師や保護者も共に考え合えるようなキャリア教育の工夫を模索していきたい。

【さわやかさ＝健やかな体、他者とのかかわり】

全体的に良好な結果となったが、「17 地域の人等とのコミュニケーション」の保護者評価が低かったことは、本校生徒の実態を表していると考えられる。すなわち、学校の授業という限定された場においては、様々な人との様々なかかわりができつつあるものの、日常生活に転移していないという実態である。

今後、外部の人やもの、こととのつながりを重視した学習活動を数多く設定すると共に、保護者にもその活動を広くお知らせすることから打開策を見出したい。

